

令和5年度

教職課程 自己点検・評価報告書

上野学園短期大学

令和6年10月

## 目次

### I 教職課程の現況及び特色

### II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

### III 総合評価

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

V 現況基礎データ一覧

## I 教職課程の現況及び特色

### 教職課程の現況

#### 1 現況

(1) 大学名	上野学園大学短期大学部 音楽科
(2) 所在地	〒110-8642 東京都台東区東上野 4 丁目 24 番地 12 号
(3) 学生数及び教員数（令和 5 年[2023]年 5 月 1 日現在） 学生数：教職課程履修者 22 名／本科全体 65 名 教員数：教職課程科目（教職・教科とも）担当専任教員 6 名／本科全体 8 名	
(4) 教職課程認定 の現況	中学校教員二種免許状（音楽）

#### 2 特色

上野学園大学短期大学部は、音楽科（1科）及び専攻科（1専攻）を有する単科短期大学である。本科で中学校教諭二種免許状（音楽）が取得可能となっている。教職課程履修者数は、全体の約3割である。

教職課程においては教職委員会を設置し、教職課程科目の専任教員と大学事務部教職課程担当者として、教職課程全般の運営についての審議や、教育実習や介護等体験にあたっての関係機関との連絡調整等を行っている。

また卒業生に限り、卒業後、教職を希望する場合、科目等履修制度により教職課程を履修できるように整備している。これにより卒業生のキャリア展開を支援している。

## II 基準領域ごとの自己点検・評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### 〔現状説明〕

上野学園大学短期大学部は、学則第 1 条に示す通り、学園の建学の精神「自覚」を教育の重要な理念とし、「音楽の知識と技能を授けるとともに、芸術文化の創造と発展とに貢献し得る人間を育成すること」を目標としている。

短期大学の 2 年間（長期履修学生は 3 年間）で、教養教育およびそれを基礎とした専門教育を提供した上で、教員という専門的職業人の養成を行っている。卒業後には 4 年制大学への編入学により学習が継続されるよう、その土台の形成に注力している。そのために、本学の教職課程では以下の項目について特に重点をおいて、卒業後教育現場で即戦力となり得る人材を育てるために、「音楽」を軸とした実践的な学びを展開する。

- ピアノ、声楽、ソルフェージュを始めとする音楽教師として必要不可欠な専門技能や知識を、少人数レッスンの強みを生かして、確実に身につける。
- 教育実習等を通して、実際の教育現場での学びを充実させ、実践力を身につける。
- 全学挙げてのアクティブ・ラーニングによる授業実践により、学生が主体的に自ら考え、判断し、表現する力を養う。

##### 〈根拠となる資料・データ等〉

- 学生のためのハンドブック（学生便覧）令和 5 年度
- 上野学園大学短期大学部ホームページより「教員の養成の状況についての情報の公表」（[https://www.uenogakuen.ac.jp/junior\\_college/about/disclosure/teacher\\_training.html](https://www.uenogakuen.ac.jp/junior_college/about/disclosure/teacher_training.html)）

#### 基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

##### 〔現状説明〕

教職委員会を設置し、教職課程全般の運営についての審議や、教育実習や介護等体験にあたっての関係機関との連絡調整等を、大学事務部教職担当職員と連携して行っている。年度初めの 4 月には教職ガイダンス内で介護等体験・教育実習の事前指導を実施し、実習に向かう学生に対する指導の徹底を工夫している。

##### 〔長所・特色〕

教育実習校へ巡回指導に関しては、専任教員の協力体制が構築されており、円滑な巡回指導ができています。また、教育実習直前には、教職課程担当教員、大学事務部職員によるガイダンスと、学長講話による事前指導を通して建学の精神である「自覚」の涵養を図っている。

〔取り組み上の課題〕

教育実習、介護等体験等、2年間での実習機会が多い。それらは全て社会での体験となるため、事前の健康管理と実習前の精神健康に関する自己申告書の提出を義務づけているが、それに自発的に取り組むことができない学生への指導が課題である。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・上野学園大学短期大学部 教職課程履修ガイド

## 基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状説明〕

教職課程の履修に関して、入学時の教職ガイダンスにおいて教職課程に係る履修科目の具体的な授業内容、修得が必要な単位数、取得可能な教員免許状の種類についての説明を行っている。また教員免許状を用いたキャリアについて説明している。

介護等体験に関するガイダンスを実施し、体験にむけたスケジュール調整と準備を明示している。教職課程の年次ごとの履修状況や内容を可視化できるように、「教職履修カルテ」を配布し、年度ごとに学生が履修科目について自己評価及び今後の課題を記入し、自身の学びの過程を確認できるようにしている。提出された教職履修カルテは教職課程専任教員が確認を行う。

#### 〔長所・特色〕

教職ガイダンスおよび履修に関する指導は、教職課程専任教員と大学事務部教職担当者が行っている。学生の履修状況および専攻による履修計画上の個別的な指導、種々の申請手続き等に関して、事務職員が教職担当教員と情報を共有しながら学生の個別的な指導及び対応を行っている。

育成においては、教職に求められる人間力や規範意識、自立した生活態度の醸成が必要なため、学生委員と協力して指導にあたっている。本学は、授業の欠席調査を行い、3回欠席している段階で指導する体制を構築しており、教職課程履修者においても予防的指導を行っている。

#### 〔取り組み上の課題〕

入学と同時に実習校への教育実習協力を依頼する。東京都内の公立学校出身者は東京都へ受け入れを依頼するが、希望者多数のため受け入れ不可となるケースがある。そのため、卒業生以外の実習生を受け入れてくれる近郊県内の協力校を確保する必要がある。

#### 〈根拠となる資料・データ等〉

- ・学生のためのハンドブック（学生便覧）令和 5 年度
- ・令和 5 年度 教職ガイダンス 配布資料
- ・令和 5 年度 教職履修カルテ
- ・令和 5 年度 欠席調査依頼文書

### 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

#### 〔現状説明〕

中学校教員を目指す学生と、資格取得が目的の学生が、履修動機において混在している。教員免許状を取得することによるキャリア展開の可能性及び、教職課程で学ぶ意義を教職ガイダンスのみならず、教職科目の授業において学生に伝え、意識化を図っている。

中学校教諭二種免許状（音楽）は、公立学校教員採用試験において一種と合格に関する扱

いは変わらないことの理解を図っている。本学教職課程では、卒業後、臨時的任用教員に就きながら教員採用試験を受ける卒業生に対して、論文、面接指導による教員採用試験支援を行っている。

また中学校教諭一種免許状（音楽）の取得を希望する学生には、4年制音楽大学への三年次編入の他、二種で教諭になった場合の免許認定講習について伝えている。また経済的な課題を抱える学生には、通信教育による中学校 1 種課程の大学への編入ができることを紹介している。

〔取り組み上の課題〕

臨時的任用教員に就くだけでなく、学童支援員や発達支援員に就職できることを説明し、本年度は、学童支援員に 2 名就職した。これらはキャリア支援センターと教職課程担当教員が情報を共有してキャリア指導を行っている。

学童支援員は大学近くでアルバイトを通したインターンシップができるため、関心のある教職課程の学生に周知していくことが課題である。2年間で自己理解を深め、教職の学びを生かしたキャリア展開には、こうしたインターンシップによる実体験が必要であり、その充実が課題である。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・ 上野学園大学短期大学部ホームページより「卒業生就職先データ」  
([https://www.uenogakuen.ac.jp/junior\\_college/career/data.html](https://www.uenogakuen.ac.jp/junior_college/career/data.html))

### 基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### 〔現状説明〕

教職課程のカリキュラムは、コアカリキュラムに基づき構築されているが、内容に関して、実践的指導能力が獲得できるよう、模擬授業やロールプレイングを重視している。また新しく導入された ICT 活用の教育方法において、具体的な指導方法を扱っている。「教職履修カルテ」をもとに履修計画の可視化を通して、見通しをもった学修への取り組みを促している。「教職履修カルテ」は年度末に教職委員長が確認を行っている。

##### 〔長所・特色〕

教職課程のカリキュラムの編成・実施は、教職委員会と大学事務部教職担当職員とが協働して取り組んでいる。履修者が 10 名前後のため、学習指導案の作成指導においては、個別に添削するなどの指導により、教育実習前に全員が作成できるように指導している。また模擬授業においては、授業技術に対する個別指導助言を授業時間に即時にフィードバックすることにより、基本的な発問、指示の習得を図っている。

##### 〔取り組み上の課題〕

教職課程履修により履修科目数が 1.5 倍になるため、1 年次後期において教職課程を取り消す学生が若干名いる。そのため、年度初めの教職ガイダンスにおいて、履修の実態を明示して、見通しをもって履修届を提出するよう指導している。

教員免許状取得に必要ないくつかの科目を集中講義にて実施しているため、疾病等による欠席者への対応が 2 年次生における課題となっており、集中講義担当者に補講を依頼する等の処置を講じて、完全履修を図っている。

##### 〈根拠となる資料・データ等〉

- ・ 上野学園大学短期大学部ホームページより「教員の養成の状況についての情報の公表」([https://www.uenogakuen.ac.jp/junior\\_college/about/disclosure/teacher\\_training.html](https://www.uenogakuen.ac.jp/junior_college/about/disclosure/teacher_training.html))
- ・ 令和 5 年度 教職履修カルテ

#### 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域の連携

##### 〔現状説明〕

実践的指導能力育成のためには、教育実践の具体を理論で説明し、具体を分析できる力を言育成するよう教職科目の授業内容を設定している。

##### 〔長所・特色〕

実践的指導能力は、「音楽科教科教育法」「道德教育指導論」「生徒・進路指導論」「特別活動及び総合的学習な時間の指導法」「教育相談」において、実際の授業実践動画を用いてその具体を分析したり、実務家教員が模範授業を模擬授業の形で行い、教育理論から分析する手法を用いている。

また地域との連携では、実務家教員が各地で現職教員対象の研修講師を務め（下記参照）、



最新の教育課題を把握し、授業内容に反映させるとともに、教員が開発している ICT 教材を用いた授業を実施している。

※令和 5 年度研修講師実績

令和 6 年 2 月 ミュージックエデュケーション IN KANTO メッセ講師

令和 5 年 12 月 つくば市希望者研修講師

令和 5 年 12 月 成城学園初等学校研究会講師

令和 5 年 8 月 茨城県教育研修センター研修講座講師

令和 5 年 8 月 守谷市教育研究会夏季研修会講師

令和 5 年 7 月 東久留米市教育研究会夏季研修会講師

令和 5 年 6 月 東京学芸大学附属世田谷中学校研究発表会研究協力者

※教員が開発した ICT 教材（音楽之友社公式サイトより無償配信）

<https://www.youtube.com/playlist?list=PL51dd22CeyApMKXFlZY585-0ukvPjXNaH>

〔取り組み上の課題〕

2 年間の課程において、理念、理論と教育技術、教育的タクトを統合した実践的指導能力をいかに効率よく習得させるかが課題である。2 年目に教育実習を行うため、洞察力をはじめとする人間力の醸成、ICT スキルの習得は限られた時間の中での学習方略の改善を積み重ねることが課題である。

特に ICT スキルに関しては、高等学校までの教育力の差が大きく影響しており、デジタルディバイドの対応は急務である。

〈根拠となる資料・データ等〉

・令和 5 年度 講義要旨

### Ⅲ 総合評価

本学の教職課程について、以下のように評価を行った。

〔特長〕入学時の教職ガイダンスにて、教員免許状取得においてキャリア展開できる見通しをもたせることにより、小中学校における教員の他に、学童支援員や発達支援員等により教育に関わる就職を紹介し、また就職に結び付ける実績を出している。また教職を学ぶことを通して、広い領域の教育活動に適用する学生も見られる。

〔今後の課題〕教員不足から志のある若手教員が求められている。本学にも小中学校の教員を目指す学生がおり、教員としての資質を 2 年間という限られた時間の中で、いかに深めるかが課題である。そのために、教職概論と教職科目の内容関連、音楽科教科教育法と教育方法論の内容関連等、科目を横断して資質・能力を育てるカリキュラムマネジメントのブラッシュアップに努める。

### Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本学の「教職課程自己点検・評価報告書」は、以下のプロセスを経て作成、公表している。

1. 教職委員会が（「教職課程自己点検・評価報告書」作成の手引きを参考にして）、点検評価の 実施と報告書作成の 手順について確認を行う。
2. 教職課程専任教員（教授、講師計 2 名）および大学事務部教育実習担当職員との協働・連携により、自己点検・評価の実施および原案の作成を行う。
3. 自己点検・評価委員会での審議および承認を経て、本学ホームページに公表する。

V 現況基礎データ一覧

法人名					
学校法人 上野学園					
大学・学部名					
上野学園大学短期大学部 音楽科					
1. 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就業者数					
① 昨年度卒業者数					27
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					17
③ ①のうち、教員免許状取得者数の実数					7
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時採用)					1
上記④のうち、正規採用数					0
上記④のうち、臨時的任用数					1
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	4	1	3	0	